



# 神苑の決意

主張

## 新時代の日口関係と北方政策―日魯和親条約を手がかりに―

「神苑の決意」 主筆 木川智

### 本号の内容

〔主張〕新時代の日口関係と北方政策―日魯和親条約を手がかりに―(木川智)：1 / 〔解説〕核燃料サイクルから見る日本の原発政策(西山徹)：3 / 〔連載〕アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る タイ・アユタヤ朝編①(仲村之菊)：5 / 〔連載〕いまどきの東アジア②(みやだ)：7 / 〔連載〕『倭姫命世記』を読み解く⑧ 共に住みたまふに安からず(柳凜)：8 / 活動報告：10 / 花瑛塾日誌：16 / 編集後記：16

頒価：1部 1000円  
(別途送料 160円)

日本とロシア(帝政ロシア・ソ連も含む)の関係は、非常に長い歴史を有する。そのなかにおいて、戦争や緊張状態もしばしばあったが、樺太・千島交換条約など国際法上適法に複数の領土条約を締結し、相互不可侵条約や協商など積極的なパートナーシップを結ぶなど、良好な関係を構築してきたことも事実である。

現在の日口関係は、日露戦争開戦前夜や東西冷戦時代のような緊張関係にあるわけではなく、日本政府もアジア太平洋地域のパートナーとしてふさわしい日口関係の構築をいい、政治・経済・安全保障・文化・国際関係での

協力など、あらゆる分野における日口関係の発展を目指し、政府間交流や民間交流が進み、日口間の貿易額も上昇するなど、その成果が出始めている。

しかし戦後、日口間の最大懸案事項である北方領土問題の進展はなく、北方地域に責任を有する国家としての日口が北方政策で協調し、有意義な結果を生み出すまでには至っていない。

一九四五年八月九日のソ連対日参戦より七年もの年月を迎え、花瑛塾は、あらためてロシアに対し国際法違反の対日参戦とこれにより侵略した北方領土の返還を求めるとも

に、日本政府に対しこれまでの対口外交を転換し、日口の平和・友好の確立と、日口両国に対し国家に翻弄された北方領土元島民の支援と北方先住民族アイヌの人々の権利擁護を求めらる。

### 北方問題の起因とその拗れ

ソ連対日参戦と領土占拠が国際法違反の侵略行為であることは明白であり、ソ連軍が行った民間人の殺害や強盗、放火や略奪などの数々の蛮行と、軍人の抑留と強制労働は許しがたく、厳しく糾弾されねばならない。北方